

ヒロシマ被爆の8月6日から10月11日 アメリカで「北一明：核時代の陶芸」展示会 開かれる

ウィルミントン大学(アメリカ オハイオ州)平和資料センター

ウィルミントン大学(アメリカ オハイオ州)平和資料センターから以下のメールが届きました。

北一明記念館理事会の皆様、

2023年の北一明記念館再開おめでとうございます。ウィルミントン大学の平和資料センターのディレクターマウス・ターニャと申します。平和資料センターとは、クエーカー教徒の原爆廃止論者バーバラ・レイノルズによって1975年に設立され、日本の広島と長崎への原爆投下による核戦争の人類体験に特化した米国で唯一の学術センターおよびアーカイブです。ウィルミントン大学平和資料センターが、2024年8月6日から10月11日まで「北一明(1934-2012)：核時代の陶芸」と題した展示会を今秋開催することを知らせたいと思っております。展示会の公式オープニングは、2024年10月1日と2日に開催されるウィルミントン大学のウェストハイマー平和シンポジウムで10月1日に行われます。

平和資料センターが北一明とその陶芸作品について初めて分かったのは、1982年から1986年にかけて北の北米ツアーの展示会をコーディネートした平和活動家ミルトン・ローウェンタール氏のおかげです。これらの展示会の4回目は1984年に平和資料センターで開催され、その際に北は「核死を抜き下ろす」の作品そして茶碗の作品を当館のコレクションに寄贈しました。2023年、ローウェンタール氏の娘であるハラ・ブーガニムさんとリンダ・リップシュッツさんが、ウィルミントン大学平和リソースセンターにさらに19の作品を寄贈しました。これらとオリジナルの作品が展示会で展示されます。

この展示会に関して、急なお知らせとなりましたこととお詫び申し上げます。2024年10月2日のオープニングに代表者を派遣していただければ幸いです。海外への渡航は非常に難しいことですので記念館からメッセージをお送りいただければ幸いです。

ご質問などございましたら、是非ご連絡させていただきたいと思っております。日本語で大丈夫です。

今後とも北一明記念館とその様々な活動について、皆様にお伝えしていけたら幸いです。よろしくお願いたします。

ターニャ・マウス博士

ウィルミントン大学平和資料センター所長

クエーカー・ヘリテージ・センター所長